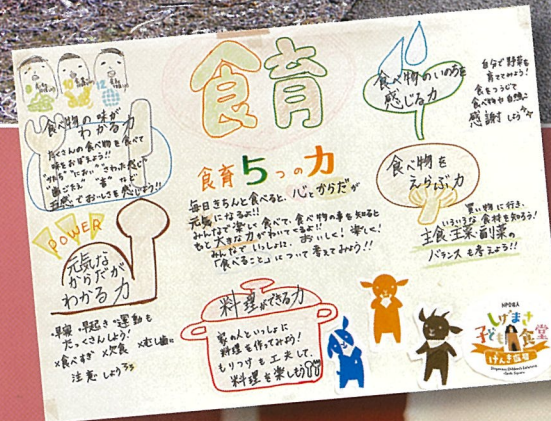
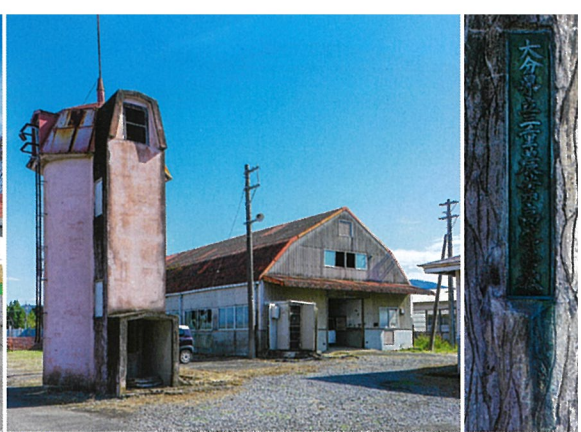




子どもを真ん中にした 地域をつくる

大分県豊後大野市 NPO法人しげまさ子ども食堂—げんき広場—





「うわぁー、採れたよー!」
 みんなで一生懸命に芋を掘り、さらには大豆を収穫。畑仕事
 がひと段落したら、休憩をしながら、スタッフがさつまいもに
 ついてのミニ講義。子どもたちは、お茶を飲みながら、熱心に
 話を聞いていた。

このイベントには、しげまさ子ども食堂の卒業生で、現在は
 社会人の3人が来ていた。彼らは今ではボランティアとして、
 時間があるときに参加しているとのこと。そんな彼らに、発足
 当時の思い出について聞くと、次のように話してくれた。「中
 学3年になり、しげまさ子ども食堂の学習支援に参加した。
 勉強も楽しかったけど、その後になんかご飯を食べながら雑
 談したり、首藤さんに進学の相談をしたりして、とても良い思

「ぶんどおのキラキラ広場」。学校で朝食支援を行う「カムカ
 ム食堂」や、学習・生活支援を中心とした子ども放課後の
 居場所である「しげまさげんき広場」など。
 また、子どもが自分の考えや思いを発信し表現できる機会
 をつくるための「地域がHOKORI」を毎年2月に開催。子
 どもたちがプレゼンテーションや舞台パフォーマンスの発表会
 をするこの取り組みは、地域の子どもが自分たちで地域を作っ
 ていくための一歩として、自分の言葉で自分の考えや思いを発
 信できるようにしてほしい、との思いで始めて5年目になる。
 そんな多彩な活動をしているしげまさ子ども食堂で、今回は芋
 掘りと大豆の収穫体験をする「しげまさ食育活動」と子ども
 食堂の様子を見ることができた。

「しげまさ食育活動」は、大分県の食育事業として実施され
 ている。この日は、地元つながりで地域の方から畑を借り、
 5月に苗を植えたさつまいもと大豆を収穫する。13時に畑に集
 合し、就学前の子どもから小・中学生から大人まで、35人以
 上に参加した。

大分駅から豊肥本線で南へ約45分の三重町駅へ。そこから車
 で10分ほど走り、5世紀初頭に築造された重政古墳を通り過
 ぎたところに、旧三重農業高校重政農場の跡地がある。今回は、
 ここを拠点とし、地域の子どもを地域で支えている、NPO法
 人しげまさ子ども食堂「げんき広場」（以下、しげまさ子ど
 も食堂）を訪ねた。

しげまさ子ども食堂は、2016年に事務局長をしている首
 藤文江さんが夫とともに任意団体として立ち上げ、2018年
 からはNPO法人として活動をしている。きっかけは、とある
 テレビ番組だった。

学校のPTAの役員や保護司、「家庭訪問型子育て支援ホー
 ムスタート」などで子育てに関わる活動に取り組んでいた首藤
 さんだったが、2014年のある日、テレビで子どもの貧困に
 ついての特集が流れていた。東京都で活動する認定NPO法人
 豊島子どもWAKUWAKUネットワークの理事長である栗林
 知絵子さんが、子どもの問題について取り組む内容だった。こ
 の番組を見た首藤さんは、私たちでもできるかもしれないと考
 え、その年に東京で栗林さんが登壇するイベントに参加した。

しかし、ゼロから始めることの難しさと継続していくことへの
 不安で、現実に行動することができないまま1年が過ぎた。そこ
 で改めて、栗林さんの助言を得て、2016年2月に子どもの問
 題に関心のある人を集め、子ども食堂のキックオフミーティン
 グを開催。すると、大分県内から約80名が参加。この勢いに押さ
 れるように、4月には第1回目の子ども食堂の開催にこぎ着けた。

現在、しげまさ子ども食堂は、毎月2回の子ども食堂や週
 2回の学習支援、毎月2回のプレーパークを中心にしつつ、豊
 後大野市での子ども居場所を増やそうと、積極的に活動を
 広げている。まずは、豊後大野市と連携した市内の子育て世
 帯への配食事業や地域で子ども居場所を増やす活動である



い出の場所になっている。人とのつながりが増える、秘密基地みたいな場所だった。

15時には収穫が終わり、たくさんのさつまいもが、しげまさ子ども食堂の拠点に持ち込まれる。調理を担当するのは、地元地域のボランティアの方々。そして、この日のメインは、さつまいもが天ぷらとさつまいも豚汁と大学芋。掘ったばかりのさつまいもが美味しい料理になっていた。食事の準備だけでなく、学習支援ボランティアや放課後の居場所支援でサブマネージャーをやっている矢野さんは、近くの三重中学校で教員を定年退職した後、ボランティアをするようになった。ここでのやりがいについて、「学びと食を通じて、子どもたちが成長していく姿に触れるのが楽しい」と語ってくれた。

少子高齢化の日本において、地域の子どもを支えていくためには、これからの地域についても考える必要がある。子どもたちのために、豊後大野市だけでなく、大分県単位でも活動の幅を広げている、しげまさ子ども食堂の首藤さん。2019年からは、県内で子ども支援をしている団体に声をかけ、毎年1回、団体同士の横のつながりをつくるためのイベントも実施している。

そんな、大分県で子ども居場所づくりのキーパーソンになっている首藤さんに、これからの取り組みについて伺うと、次のように答えてくれた。

「子どもたちを真ん中に、企業や行政、子育て支援団体など、様々な団体とつながりながら、地域の大人が協力し合って、子どもたちのために活動していきたい」。

【連絡先】
NPO法人しげまさ子ども食堂—げんき広場—
メール:shigemasakodomosyokudou3@gmail.com
TEL:0974-22-1113

